



創部4年目

夏初勝利!

又六鹿



号外

第90回全国高校野球選手権記念鹿児島大会は6月29日、鹿児島市の県立鴨池球場で開会式があり、夏の甲子園を目指す熱戦が幕開けた。初日は県立鴨池市民の向球場で1回戦6試合があった。1回戦屈指の好カードとなった枕崎 準人工戦は準人が中盤に挙げた2点を守り切り完封勝ち。大会初出場の鹿児島修学館は鹿児島南に5回11点1失点で負け、このほか鶴翔、奄美、鹿屋農、喜界が2回戦に勝ち進んだ。第2日は30日、両球場で1回戦7試合がある。政純一郎

「高校生らしい」野球

県立球場のオープンニングゲーム鶴翔 薩摩中央はともに学校創立4年目を迎える新設校同士。鶴翔が序盤のリードを守り切り、つれい夏の大会初勝利を手にした。浦田伸也監督は「お互いにお披露目になる試合をしましょう」と話していた。内容的にはいろいろあったけど、バントで守備が粘る高校生らしい野球でしたと勝利の喜びをかみ締めた。

1回戦(県立鴨池)

薩摩中央 000 010 210 = 4

鶴翔 200 301 00 x = 6

(薩)原口、假屋、的場、村山

(鶴)山口、吉永、青龍

・三塁打 町田(鶴)・二塁打 假屋(薩)平野(鶴)

・暴投 薩2・試合時間 2時間47分

薩摩中央には、6月の北陸大会で210で11点で負けた。1ヶ月から生活面から見直してチームを作ってきたが、うちよりも完成されていて完敗でした。浦田監督。敗戦後、もう一度練習や生活面から引き締めなおして夏のリーグマッチに挑んだ。各打者は打席の前に立ててバントの構えからバントを引いて揺さぶり、14四死球を選んだ。3つの送りバントを決め、相手のミスを誘い序盤で主導権を握った。左腕の十太山口卓郎は直球とカーブのコンビネーションで丁寧に投げ抜き、シフトを作った。守備は終盤1イニングも出て追いつけられなかった。今まではあそこを連続反応で崩れていたけど、きょうは最後までよく粘ったと浦田監督。青龍界也主将は全力疾走やピンチの場面でも声を出して盛り上げるなど相手と同じくバントにこだわっているようになり、チームの成長を実感していた。

